

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①学力・学習状況調査等の結果分析や学年グランドデザインに基づきカリキュラムマネジメントに取組む。②各教科等で児童の問題解決能力を育成する授業づくりに取組む。③低中高で目指す「聴く力」「話す力」「話し合う力」の能力を設定し指導を行う。④ロイノート等ICT活用や日課(時程)の工夫により、更に柔軟な教育課程編成に取組む。	①調査分析はできなかったが、グランドデザインをもとに、カリキュラムマネジメントすることができた。②問題解決能力の育成を目指した授業づくりに取り組むことができ、身に付けた力を生かせるようになっていく。③低中高で目指す力を各学年で明確にしていく必要がある。④ロイノートの活用により、振り返りや学びの交流などが充実した。	A
豊かな心	①道徳の時間を通して自らを振り返り、よりよく生きようとする心を育む。②子どもが主体的に活動できる場面を設定する。フレンドチームなど異学年を意識した活動を行い、友達や相手を思いやる心を育成する。③牛久保のまちに目を向け地域と関わり体験的な活動を通して「本物」に触れ、豊かな感性を磨く。	①道徳の時間を通して自らを振り返り、よりよく生きようとする心を育むことができた。②今できることを考えながら子どもが主体的に活動することができた。学級活動を工夫した。フレンドタイムでは、コロナ禍でも、高学年が活動内容や異学年交流の仕方を考えることができた。③地域、専門の方をお呼びして地域に目を向け、体験的な活動を行い、「本物」に触れ、豊かな感性を磨くことができた。	B
健やかな体	①自分事として心と体を見つめられるように指導をする。家庭とも連携し健康を意識した生活について考え取組む。②一校一実践として、集会「3分間長縄跳び」、体育「〇分間縄跳び」、「〇分間走」に取り組み、個の持久力が高まる運動を継続的に行う。③食の関心を高めるために、給食時間や学級活動、家庭科・保健・社会・生活・総合など各教科・領域、牛久保タイム等において、栄養教諭と連携した学習を行っていく。	①便りや掲示物などで健康を意識する機会を設けることができた。さらに保護者との連携を密にしていきたい。②一校一実践で、個の持久力が高まる運動を継続的に行うことができた。体育の時間の初めに慣れの運動を行い、結果を記録し続けることで、個々が目標に向かって努力したり、目標を達成する喜びを味わったりできた。③家庭科、総合、学級活動を活用した食育を実施することができた。	B
人権教育 児童指導	①人権週間の取組を系統的に行い、学習内容や気付きを紹介し合い、全校で人権への意識を高める。人権研修や資料を使って人権に関わる意識を高める。またこれらの取組を保護者や地域等に発信する。②月別生活目標、保健目標、給食目標を児童委員会からも発信する。③児童主体のあいさつ運動を継続し、親子あいさつ運動も実施する。④児童指導に関わる諸問題を専任を中心に、副専任や児童指導担当、各関係機関等と連携を図り組織的に対応する。	①人権週間の取組を系統的に行い、学習内容や気付きを共有し、人権意識を高めた。研修などで教職員の人権に関わる意識を高めた。またこれらの取組を保護者や地域等に発信することができた。②保健目標は児童から発信できたが、給食目標と生活目標も次年度は同じようにしていく。③児童主体のあいさつ運動を継続し、親子あいさつ運動も実施する。④児童指導に関わる諸問題を専任を中心に、副専任や児童指導担当、各関係機関等と連携を図り組織的に対応することができた。	B
特別支援教育	①個別の支援計画、指導計画を基に個に応じた指導、支援を継続していく。②特別支援教室では、子どもの困り感に寄り添い、算数科、国語科において、基礎基本の習得を目指し、一人ひとりに応じた学習を実施する。③SCやSSWと連携しながら、横浜型センター的機能を活用し、専門的な方の助言を受けて適切な指導支援につなげていく。	①個別の支援計画、指導計画を基に個に応じた指導、支援を継続できた。②特別支援教室では、子どもの困り感に寄り添い、算数科、国語科において、一人ひとりに応じた学習を実施することができた。③SCやSSWと連携しながら、横浜型センター的機能を活用し、専門的な方の助言を受けて適切な指導支援につなげていくことができた。	B
地域連携	①牛っこ応援団を通して、積極的に地域人材を学習に活用する。②学習したことや活動したことを地域に発信していく。③児童の地域行事参加率を70%を目指す。(社会情勢に応じて)	①ホワイトボードの活用、UBFの活用をしていく。(文言を牛っこ応援団を通して→連携して)地域の捉えとしては…学区+牛っこ応援団②今後発信していく方法を考えていく。③コロナ禍のため、公園愛護会や自治会のどんど焼きなど参加できるものは児童だけでなく、教職員も参加した。	B
安全管理	①様々な状況を想定した避難訓練を通して、児童の防災・防犯意識を高める。②登下校指導や定期的な見回りを実施することで、児童への安全指導、地域の危険箇所の共通理解を図る。③PTAや学援隊などとの連携を図る。④安全点検・安全研修の実施(着衣泳、職員の学校安全研修など)。	①様々な状況を想定した避難訓練を通して、児童の防災・防犯意識を高めることができた。振り返りをいかながら提案することができた。②登下校指導や定期的な見回りを実施することで、児童への安全指導、地域の危険箇所の共通理解を図ることができた。③PTAや学援隊などとの連携を図る。④安全点検・安全研修の実施(着衣泳、職員の学校安全研修など)。	A
未来を開く志	①生活科や総合的な学習の時間を中心に、「ひと・もの・こと」など本物との出会いを大切に、SDGsを意識した活動に取組む。新たな単元を開発していく。②他者の意見や考えを尊重する資質を育てるために、各教科等において話し合い活動の充実を図る。	①学校全体で、生活科、総合的な学習の時間を中心に「ひと・もの・こと」の出会いにこだわりSDGsを意識した活動を行うことができ、単元開発も工夫した。②話し合い活動の充実を図るため、子どもたちが思いや願いをもって取り組むことができるように(学びを生かせるように)各教科を意図的につなげていく。	B
	①いじめ未然防止を目指した取り組みを代表委員会や子ども会議を通して児童主体で話し合い、活動につなげる。②月1回学校生活アンケート・	①いじめ未然防止を目指した取り組みを児童主体で話し合い、活動につなげていく。②月1回学校生活アンケート・ハートフルウィークで教育相談実施。いじめの事態把握に取組むことができた。③YPアヤ	

いじめへの対応	<p>ハートフルワークで教育相談実施。いじめの事態把握に取り組む。③YPアセスメントを活用した児童理解研修を行う。「いじめ防止メソッド」「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の計画的な取組。④他機関と連携した情報モラル教育を実施する。⑤いじめ防止のための研修を実施し教員のスキルアップを図る。</p>	<p>アセスメントを活用した児童理解研修を行う。「いじめ防止メソッド」「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の計画的な取組を行った。④他機関と連携し、保護者も参加できる情報モラル教育を実施する。⑤いじめ防止のための研修を年度末に実施し、教員のスキルアップを図る。</p>	B
人材育成・組織運営 (働き方改革)	<p>①日課表の工夫により、教職員の裁量ある時間の確保をし、児童理解や授業力向上を目指す。②計画的に研修を実施し、指導力向上を図る。③メンターチームでは、ミドルリーダーや主幹教員等もかかわり指導力向上を図る研修を行う。④一部教科分担制など協働型指導を伴うチーム学年経営を実施し組織力向上とワークライフバランスを推進する。学年主任会、学年研、三部会、UCL(共同研究)等で、ベテランの経験値や良さをひきつけるよう校内OJTを強化する⑤ICTの活用による情報の共有化を活用した事務の簡便化・効率化を図る。</p>	<p>①持続可能な学校の実現に向け、教育課程編成や日課表の工夫により、裁量の時間が増え、情報交換や教材研究の時間を確保することができた。②UCLや児童理解、人権、ミニ研修などを実施し、指導力向上につなげた。③メンターチームでは、ミドルリーダーや主幹教員等と関わり合いながら、指導力・授業力の向上を図る研修を行うことができた。④教科分担、特別教室の配当など組織的に活動できた。学年主任会やブロック研など横のつながりも大切にしながら強みを出し合って校内OJTを強化できた。⑤ICTを活用し、事務の効率化を進めた。</p>	B
ブロック内 評価後の 気付き	<p>ブロック9年間で育てる子ども像について、年度初めに確認し、共通理解を図ることができた。感染症対策を講じながら児童生徒の様子について情報交換を行うことを通して、支援を要する児童の共通理解を深めるとともに支援方法や保護者への対応などについて話し合い、SSWや学校カウンセラー、スクールサポーターなどの外部機関と連携を取りながら支援策を図ることができた。コロナ禍でも、情報交換やDVD配付などを通じて、理解を深めることができた。今後も可能な方法を探りながら継続することが必要だ。</p>		
学校関係者 評価	<p>ご苦労様です。児童も先生もあくせくせず、ゆったりとした日が遅れるといいです。先生方の働き方改革に取り組まれていることは好ましく思う。先生方が、教育委員会への報告や管理業務に時間を取られ、忙し過ぎではないかと思う。その業務を減らし、その分、子どもたちに対する時間が増えることが望まれる。コロナ流行によって、授業の進め方にも工夫されていると思う。児童の意欲を引き出すような様々な工夫がうかがわれ、先生方の熱意が伝わってきた。</p>		
中期取組 目標 振り返り	<p>中期学校経営方針の内容について、年度当初に説明の機会を設定し、具体的取り組みや内容など共通理解を図った。機会をとらえて部会ごとに振り返り、成果や修正案を検討し、より良い取組を考えることで、職員一人一人が意識して進めることができた実感している。コロナ禍で様々な制限がある中ではあったが、アイデアを出し合いながら継続して進めたことが今年度の成果につながっている。来年度は、目標実現に向けた三つのプランを意識して、職員全体で協力しながら具現化を目指していきたい。</p>		